

中学校及び高等学校の部

最優秀賞

「めんそ〜れ沖縄」

未来高等学校1年生 高嶺 真帆

「めんそ〜れ」

数年前、私はこの言葉に出迎えられ、生まれ故郷である沖縄に帰ってきました。それまでずっとオーストラリア、ニュージーランドと外国で育った私は、その中でも観光産業が大変盛んで年中観光客で賑わっている地域に住んでいました。そこは、観光客と地元の人々との交流を通して、毎日のように新しい出会いや発見がある刺激的で楽しい場所でした。そんな慣れ親しんだ街を離れることに大きな抵抗を感じている私を見かねた友人が、「Don't worry!! I'll think you'll love Okinawa!!」心配しなくても沖縄大好きになるよ。と声をかけてきました。なぜ彼女は沖縄のことを知っているのか訪ねてみたところ「Sightseeing」観光だと楽しそうに答えてくれました。私はこの時初めて、沖縄が有名な人気観光地であることを知ったのです。さらに話を聞いていくと、面白いことにオーストラリア、ニュージーランドと沖縄の観光産業にはある共通点がありました。それは、どちらも自然環境や食文化、独特の伝統が観光を支えているということです。そのことに気がついた私は、これから行く沖縄への親近感と興味で不思議と不安は消え、「どんなところだろう」とあれこれ想像力を膨らませながら、わくわくしたのを覚えています。

初めて見た沖縄の景色。

青い海。青い空。豊かな自然。それは、私が今まで見てきたものとは、全然違いました。

「Oh my god!!It's so beautiful!!」

私の隣にいた外国人が思わず放ったであろうこの一言に、当時日本語がわからなかった私は大きくなすきました。そんな私を見た私の両親は、自然が多い名護市に住むことを決めたそうです。家も学校も海のすぐそばにあり、毎日のように海で遊ぶという贅沢な時間を過ごすことができました。

そんな充実した日々の中で、私が感じた沖縄最大の魅力、それは沖縄県民「うちなーんちゅ」です。私が住んでいたオーストラリア、ニュージーランドは世界有数の多人種国の一つで悲しい事に差別などがなかったかと言えば嘘になってしまうのが現実です。しかし、ここ沖縄の人々は、言葉や文化何も知らずにやって来た私でも温かく受け入れ、時間をかけながらも沢山のことを教えてく

れました。私だけにではなく、本土や外国から来た観光客一人一人に合わせた親切な対応をしているのをよく見かけます。実際に、ドイツから沖縄観光にやって来た私のいとこが迷子になったり、記念写真を撮ってほしいが言葉が通じないときに我先にと助けてくれた方がいたらしく、そのことを何度も嬉しそうに話してくれました。

ここまで人を惹きつける私達うちなんちゅの「ゆいまーるの心」私はこれこそが沖縄の観光発展につながる大きな鍵だと思っています。なぜなら、沖縄の魅力としてうちなんちゅを挙げる観光客が年々増えているのです。そして嬉しいことに、その観光客はリピーターとしてもう一度沖縄に遊びに来てくれます。

ずっと受け継がれてきた沖縄県民の「ゆいまーるの心」私達が次の世代へ、次の世代がその次の世代へとリレー方式でしっかり伝えていくこと、それが沖縄観光の未来を明るくするでしょう。

しかし一方で、基地問題、領土問題、環境問題などの「どうすればいいのか、わからない現実」が私達のすぐ目の前にあります。悲しいことにその一つとして、私が大好きな名護の海の埋め立て案が出されています。もちろん私は思い出の場所がなくなってしまうのは嫌です。しかし、それ以上に沖縄の綺麗な海をわざわざ埋め立てるのがいいアイデアだとは到底思えません。地球が平等に分け与えためぐみの中で、ここ沖縄は最高のものを獲得しました。私達はそれらを自らの手で壊すのではなく、守る事を考えるべきなのではないでしょうか。

私も住んでいれば、あなたも住んでいる、「みんなの沖縄」です。

「自分には何ができるのか」

みなさん、一緒に考えてみませんか。私の祖父母は修学旅行生を家に招き、泊まらせることで、ありのままの沖縄の魅力を伝えるボランティア活動を地域で取り組んでいます。その活動は修学旅行生の間での評判がとても良く、その輪も広がっているようです。そして、私自身も、これまで地域や海岸清掃ボランティアを学校で取り組んでいました。高校生になった今、沖縄に来てくださった外国人観光客の通訳をする語学ボランティアとして活動しています。

なぜ、この小さな島沖縄はこんなにも多くの人々から愛されているのでしょうか。私は、これまでのさまざまな経験を通してある答えにたどり着きました。

ここ沖縄は心と心で感じ、通じ合える独自の魅力があって、誰もが無条件に観光を楽しめる絶好の場所なのではないでしょうか。

その無限の可能性を秘めた沖縄を日本に、世界に自身を持って、もっともっとアピールしていきましょう。そうすることが、未来の沖縄の観光発展にもつながります。

数年前、私を出迎えてくれたあの言葉。

次は私が胸を張って笑顔で言う番です。

「めんそーれ」